

「トランプ現象」の文化社会学

——アレクサンダーらによる 2016 年のアメリカ大統領選挙の分析の検討から——

法政大学 兼子論

本報告では、現在グローバルな政治シーンを席卷する「トランプ現象」の文化的特徴を明らかにする試みの一環として、この現象の発端ともいえるべき 2016 年の大統領選挙についての文化社会学的考察を行う。また、この考察のために、J.アレクサンダーらが着手している、2016 年のアメリカ合衆国大統領選挙の分析を検討する。

アレクサンダーは、2016 年の大統領選以前に、2008 年と 2012 年の大統領選挙についての分析を行っている。特に、2008 年の選挙の分析をみると、アレクサンダーは、アメリカは貧困や階層化といった「内憂」を抱えており、この「内憂」を解消する「市民の」英雄こそがアメリカには必要なのであって、そのような英雄として自らはふさわしいと主張する選挙キャンペーンを展開した B.オバマと、アメリカはイスラム原理主義によるテロリズムのような「外患」にさらされており、この「外患」を解消する「軍人の」英雄こそがアメリカには必要なのであって、そのような英雄として自らはふさわしいと主張する選挙キャンペーンを展開した J.マケインの間での象徴闘争として把握できるとしている。そしてアレクサンダーは、2008 年の大統領選挙について、アメリカ社会は「内憂」を第一に解消しなければならない社会的危機として位置づけ、その解消のための英雄としてのオバマを選出したとして、アメリカ社会における市民性や市民の連帯の回復をもたらす契機になったと高い評価を与えている。

これに対して、2016 年の大統領選挙については、アレクサンダーが編者を勤め、アメリカの著名な文化社会学者が執筆者として名を連ねている『意味の政治／政治の意味』にあるように、選挙戦では社会の分断や決裂が露呈し、アメリカ市民の連帯や市民性の回復は著しく毀損されることになったとしている。オバマの勝利という結末で幕を閉じた 2008 年の大統領選挙とは対称的に、トランプの勝利で幕を閉じた 2016 年の大統領選挙では、アメリカの公共圏は破綻をきたし、同じ市民の一員であるという「市民の成員性 (civilship)」が喪失されることになったというのである。

そこで本報告では、『意味の政治／政治の意味』における大統領選の分析についてより詳細な考察を施すことにより、2016 年の大統領選挙に関するアレクサンダーらの文化社会学からの洞察について検討する。またそれにより、文化社会学の視座からみた「トランプ現象」の有する文化的特徴を明らかにしたいと考える。

[主要参考文献]

Alexander, Jeffrey C., 2010, *Performance of Politics*, New York: Oxford University Press.

Mast, Jason L and Jeffrey C. Alexander eds., 2018, *Politics of Meaning / Meaning of Politics*, Cham: Palgrave Macmillan.